

高尾山 花だより！



第2号

高尾山の花名さがし隊
ショッパーから転載

はじめに

ショッパーに連載している「高尾山花だより」を、写真展で展示したところ、スクラップを忘れた人、八王子に住んでいるが配布されていない地域の人、八王子以外の人などから、小冊子にしてほしいとの要望が多くありました。要望にお答えして、1年分を小冊子にして出版することにしました。

高尾山の花名さがし隊

「高尾山花だより！」発刊に寄せて

遠藤進さんに初めてお会いしたのは10年前、八王子市市民企画事業の審査プレゼンテーションの場でした。高尾山の魅力を広く発信するための書籍を出版したいと熱く発表されていたのが印象的で、いずれはショッパー紙面にご登場願えればと思っていました。

その機会がやってきたのは昨年。高尾山の花々を毎月1回のペースでコラム連載していただけないかと依頼したところ、ご快諾いただき現在に至ります。読者からも好評でバックナンバーを求める声が多数届いています。

今回、四季を通じた1年分をまとめられたことは多くの方に喜ばれると思います。

2018年 夏

地域新聞ショッパー八王子支社
編集長 甘利 昌史



4月

高尾山花だより ～その13～

高尾山もいよいよ春真っ盛り。花があちこちにいっぱい咲いて私たちの目を楽しませてくれる。

高尾山といえばスミレが有名です。葉が三つに裂けているのがエイザンスミレ。もっと裂けているのがヒゴスミレ。

4枚の葉の中央から花が出てるのがヒトリシズカ。1人で静かに咲いているかと思って周りを見ると、何本も咲いています。静御前が舞う姿を1本の花穂に見立ててヒトリシズカと命名されたとか。

花が船の碇に似た花を咲かせるのがイカリソウ。根元の葉が大きく地面にへばりついているのがヤマルリソウ。泥の付いていない綺麗な花を写したいところ。「忘れない草をあなたに」の歌で有名なワスレナガサに似る。

(文・写真 遠藤進 佐藤正之)



エイザンスミレ(觀山堇)
高尾山のあちこちにみられます



イカリソウ(碇草)
シモバシラがでる一丁平に咲いています



ヒトリシズカ(一人静)
花穂に白い糸状の雄しべがいっぱい



ヤマルリソウ(山瑠璃草)
春の小下沢の名物です

高尾山こぼれ話

春の初めホーホケキョが高尾山に響き渡ります。でも慣れていないせいか、ウグイスも最初は下手です。春も本番になると上手く鳴くようになります。花札にあるように梅にウグイスが定番と思ったら、ウグイスは梅の枝にはあまり止まらないようです。目の周りの白いメジロの方が、梅に相応しい。ウグイス色はメジロの方で、ウグイスは地味な色で目立ちません。

「高尾山おもしろ百科」より





5月

高尾山花だより ～その14～

高尾山では春の花が一段落し、そろそろ山歩きも汗ばむ季節になりました。この季節、涼しい沢沿いを歩くのも快適です。

沢の近くにはショウウフや力ギツバタに似たシャガが咲いています。古代に中国から入ったようです。明治以降のものを外来種というので、シャガは外来種ではないとのこと。実がつかず根で繁殖するので、土手崩れ防止に植えられる。

涼しげなヤマアジサイがこの時期に咲きます。アジサイ類はシーボルトが持ち帰り、品種改良されて逆輸入されたものが多いとか。

花びらが5枚の黄色い花がニガナ。花びらが多いのがハナニガナ。紺いた麻糸を巻きつけた管に似たのがヤマオダマキ。

(文・写真 遠藤進)



シャガ(射干)
6号路でいっぱい楽しめます



ニガナ(苦菜)
高尾山のあちこちで顔をだしています



ヤマアジサイ(山紫陽花)
沢沿いにいっぱい咲いています



ヤマオダマキ(山苧環)
滅多にないので見つけると嬉しい花

高尾山こぼれ話

ムササビは日没30分後に巣を出て、戻るのは夜明けの30分前のこと。この時間はかなり正確らしい。高尾山を案内する時に、皆さんの若いころによく似ていますねといふと大笑いになる。巣が分かれれば出てくる時間が決まっているので、比較的観察しやすい。巣は大きな木の上の穴で、そこから鳥の翼のような飛膜を広げてグライダーのようにして飛ぶ。

「高尾山おもしろ百科」より





6月

高尾山花だより ～その15～

梅雨のこの季節、雨の合間に高尾山を歩いてみませんか！雨上がりには花もいっそうきれいに見えます。

オカトラノオは日当たりのよい丘に、虎のしっぽのように咲くところからこの名がついたとか。花が下から先端に向けて順番に咲いていきます。

戦いの時に武将が振る采配に似た蘭がサイハイラン。采配は祭りや運動会でも使われます。サイハイランの他に、同じようなおもしろい姿としては、茶色のツチアケビ、キヨスミウツボ、キバナノショウキランなども時々みられます。

沢沿いの湿気のあるところに咲いているのがサワギク。葉が裂けているのですぐ分かります。紅紫色の花がナワシロイチゴ。

(文・写真 遠藤進 都丸次郎)



オカトラノオ（丘虎の尾）
日当たりに咲き誇ります



サワギク（沢菊）
沢沿いで見かける時あり



サイハイラン（采配蘭）
日の当らない所に咲きます



ナワシロイチゴ（苗代梅）
見つけたら運がいい花です

高尾山こぼれ話

薬王院の石碑に一町目とあります。一町目は一丁目と同じ意味で、薬王院を一丁目、清滝を三十六丁目とし、昔は薬王院までの距離を表していた。一丁が約85m。今は使われていませんが、1号路の所々に丁目を表す石碑が見られます。一番有名なのが十一丁目茶屋。店の前に十一丁目の石碑があります。一丁目が高尾山の頂上でないのが面白い。

「高尾山おもしろ百科」より





7月

高尾山花だより ～その16～

そろそろ梅雨明けが近いこの季節、スカッと晴れた青空のもと、高尾山を歩いてみませんか！

トクダミの花が裏高尾などの民家の近くに、群生して咲いています。名前にトクとあり匂いも強いので毒草かと思ったら、毒消しという意味で薬草として重宝されたようです。煎じてお茶として飲まれています。十の薬効があるので、十薬とも呼ばれています。

シュウカイドウも民家の近くで咲いています。この花はいっぱい咲くときれいです。

ウバユリは葉のない時期に花が咲くので、歯のない姥になぞらえてこの名がついたとか。

ユリのような花がノカンゾウ。この花に似た八重のヤフカソノウという花もあります。

(文・写真 遠藤進)



ドクダミ(蕺草)
高尾の民家近くのあちこちに



ウバユリ(姥由利)
小宮公園にもいっぱい



シュウカイドウ(秋海棠)
小仏の登山道にあり



ノカンゾウ(野萱草)
林のふちはなどに咲く

高尾山こぼれ話

アサギマダラを高尾山でよく見かける。中国や東南アジアまで飛んで行き、帰りは子が飛んでくるという。白いタオルなどを振ると寄ってくるとか。飛んでいるのを見つけたら、1度試してみよう。冬にキジョランの葉に穴があいている場合は裏側に幼虫がいることがある。幼虫は葉に丸くキズを付けて毒を出してから食べるらしい。

「高尾山おもしろ百科」より





8月

高尾山花だより ～その17～

暑い日が続いていますが、日陰の多い高尾山の6号路の沢沿いを、せせらぎの音を聞きながら歩いてみませんか！

今回は珍しい花2つから紹介しましょう。1つはカラスウリ。この花は夜しか咲かないのに、写真のように見事に咲いているのを撮るのは大変です。

もう1つは南蛮人のパイフの形のナンバンギセル。ススキに寄生する珍しい花ですが、運のいい人は出会えるかも。

イヌショウマは高尾山にいっぱい咲いています。花が枝に直接付いているのが特徴です。似た花で、花と枝の間に短い枝状のもの（花柄）が付いているのがサランショウマ。

カワラナデシコは、万葉集にも歌が詠まれるほど古くから有名。

(文・写真 遠藤進 都丸次郎)



カラスウリ(鳥瓜)
小宮公園では撮影が簡単



イヌショウマ(犬升麻)
高尾山のあちこちに



ナンバンギセル(南蛮煙管)
小宮公園のススキのそばにも



カワラナデシコ(河原撫子)
山麓の日の当たるところに

高尾山こぼれ話

薬王院大本堂前の門の左右に仁王像が配置されています。運慶の作といわれる。阿吽の像のまわりはガラス張り。ハトの糞を防止するためと、紙を噛んで仁王像に投げることで像が汚れるのを防止する。噛んで投げた紙がくっつくとその部分の病気が治るという俗説がある。仏道では、阿は事の始まりを、吽(うん)は事の終わりを表している。



「高尾山おもしろ百科」より



9月

高尾山花だより ～その18～

酷暑の夏も過ぎ、いよいよ高尾山に秋の花が咲き始めます。

片側に花を咲かせるのがシモバシラ。冬になると枯れた茎から水が上がり、きれいな冰華ができるのでよく知られています。似たものに長刃(なぎなた)の刃のような花を片側に付けるナギナタコウジュという赤っぽい花もあります。

ツルニンジンは別名ジイソフ。葉や茎に毛がなく、そばかすのお爺さんに似ているからだと。一方毛があるバーソフ(婆そふ)もあります。

紫色の可憐な花を咲かせるのがヤブマメ。花が終わってから豆ができます。

カラスノゴマは小さな胡麻状の種ができます。鳥の食べる胡麻にたとえこの名が付きました。

(文・写真 遠藤進)



シモバシラ(霜柱)
高尾山のあちこちに



ヤブマメ(藪豆)
よく見ればあちこちに



ツルニンジン(蔓人参)
もみじ台から城山あたりに



カラスノゴマ(鳥の胡麻)
少ないが黄色ですぐ分かる

高尾山こぼれ話

高尾山の飯盛杉は杉弘法大師が食事後に、箸を地面にさしたら芽が出て杉の木になったとい伝説のある木です。お椀にご飯を山のようにもつた形に似ているので飯盛杉といいう名になららしい。通常はこの杉には近寄れません。5月のシャクナゲが咲いている時期は、薬王院近くのシャクナゲ園が公開されるので、すぐ近くまで行けます。

福籃社発行「高尾山おもしろ百科より」

